

# 龍北生、今何ができるのか

# ～専門学科の学びを～

6月3日(金)、山崎断層による巨大地震を想定した、地域拠点型合同防災訓練が行われた。龍野北高校で学んだ専門知識を生かし、自分に何ができるのか、認識できたと思う。今回の防災訓練は、防衛省自衛隊、国土交通省、西はりま消防組合の方をはじめとする団体に協力していただき、災害時の対処や使用機器について学んだ。また参加者は、小学生を含む約1,100人が参加した。

地震が発生したという放送の直後、生徒はグラウンドへ避難した。全員の点呼が終了後、実際の救助要請の訓練を行った。救助要請後、はしご車が中庭へ入っていき、音楽室からの救助を試みた。救出される2名の生徒は緊迫した面持ちで、現在自分の置かれている状況をジェスチャー等で表現した。その様子を全校生徒や小学生が見守り、無事、2名を救出することができた。

はしご車の訓練後、開会

## 全日制課程



まちを支える人づくり スペシャリストへの道

# 龍野北高校新聞

～地域との共生を図り、明るく活力のある学校～

# 防災訓練

式が行われ、前半と後半に分かれてそれぞれの場所での訓練を行った。倒壊家屋の人命救助訓練では、3年4組の生徒が行った。指導をしていただいた西はりま消防組合の方は、「救出活動中は、要救助者に声掛けを！」と生徒に呼び掛けた。要救助者は、自分がこれかどうなるのか不安であり、声掛けをしてもらうことにより安心するということ。逸早く要救助者を助けようとする思いが、手馴れないジャッキやバルにも躊躇することなく使用することができた。そして、要救助者を安全なところまで避難させることができた。

また、トリアージ・応急処置の訓練では、傷メイクを施した3年5組の生徒が負傷者となり、看護専攻科の生徒がグラウンドでトリアージと応急処置を行った。トリアージとは、重傷度や緊急度に応じて「傷病者を振り分ける」ということである。重傷者は体育館へ搬送し、3年6組の生徒が応急処置を行った。本校の特色でもある、デザイン科と看護科、看護専攻科が協力した訓練となった。

今回の経験は、「もしもの時の知恵となり、積極的な行動を起こす1つの手助けとなった。」



令和4年7月15日(金)発行  
第5号  
兵庫県立龍野北高等学校  
Tel 0791-75-2900  
Fax 0791-75-2296

# 環境建設工学科 現場見学へ



環境建設工学科3年生を対象とした現場見学会が実施された。3年生は年に1回、現場見学に行っている。今回は、午前中に「土木」の現場として太子町内に新たに作られる道路の見学と、たつの市で完成した令和跨線橋(JRに架かる陸橋)を見学した。また、午後からは「建築」の現場として、姫路市にある市営住宅建替え工事を見学した。

土木の現場では、JR網干駅の近くに幹線道路を分断する、通称「開かずの踏切」がある。そのため、平日は車の大渋滞が発生している。今回の道路はその渋滞を緩和するために新しい道路を作っているのだ。このことを知って生徒たちは、「土木工事」は人々の暮らしを便利にし、社会貢献にも大きく関わる仕事であることを実感した。また、建築の現場では実際に工事を行っている建物内も見学し、完成後は壁や床などで隠れてしまう部分も見学する機会があった。生徒達はとても興味深く見学していた。

土木・建築の授業には「施工」という工事現場での流れや仕組みを学習する科目がある。普段工事現場に入ることができない生徒達にとっては、理解しにくい科目の1つとなっていた。しかし、今回の現場経験を通じて、教科書だけでは分かりにくい部分も実際に目で見て、確認することで、さらに理解が深まり、「こういうことだったのか!」という、色々な「気づき」があったようだ。



## 8月の行事予定

22日(月)	15日(土)	12日(水)	2日(火)	1日(月)
後期インターンシップ(2年就職希望者)	夏季補習(後期)	建設サマーセミナー	第1回オープンハイスクール	第1回オープンハイスクール
24日(水)まで	26日(金)まで	26日(金)まで	2日(火)	1日(月)
はなまる連絡帳等で随時連絡します。	はなまる連絡帳等で随時連絡します。	はなまる連絡帳等で随時連絡します。	はなまる連絡帳等で随時連絡します。	はなまる連絡帳等で随時連絡します。

※変更等はHP・はなまる連絡帳等で随時連絡します。

## 定時制課程

# 就業体験活動



5月30日(月)～6月3日(金)の5日間、2学年生徒対象に就業体験活動が行われた。地元の企業様にご協力いただいた。生徒たちは普段からアルバイトをしている者が多く、働くことに慣れているが、就業体験ならではの製造業や整備士、保育士といった幅広い職種の中から選び、体験するということは将来の進路決定に大きな影響を与えたとはいえない。誰かが働くから今の生活がある。働く意味を考える、そのような機会になったと思う。



# 生き方講演会

5月23日(月)本校アゼンブリホールにて、生き方講演会が行われた。講師には松壽山 不徹寺庵主 松山 照紀様をお招きした。「人はどんな時に怒りを覚えるのか、それは自分の思い通りにいかなかったときに現れる感情である」という話には全員が納得した。生きるということとはどういうことなのか、生きることの尊さを理解し、将来



の自己のあり方を考えるきっかけになったと思う。